

～正倉院展って素晴らしい！古代からの贈り物だ～

10/30、毎年恒例になっている関西グループ主催の正倉院展鑑賞会に行ってきた。

以前より安永君に初参加の依頼をしていて、川邊君と相談をして日程を計って頂き、いつもは週末のところを平日で調整してもらいました。集合場所は、近鉄奈良駅にある行基菩薩の銅像前。改札口で川邊君が声をかけてくれたので、無事到着。時間前に参加者 10 人（川邊、本吉、安永、篠原、田中義一、広田、青木、高鍋夫妻、福嶋）全員が勢揃いした。車で参加の青木さん同乗組と鑑賞券購入組に分かれて行動し、奈良国立博物館入口前に再び集合した。チームワークの良さが光るねえ～！

しかし、正倉院展の人気は凄かった。平日なのに入り口は長蛇の列、週末は恐ろしい状況が目に見えるようだ。列は進んでいざ中へ、不慣れな私を誘ってくれたのは義一ちゃん。展示物の前の説明文を読みつつ、義一ちゃんが解説。聞きながら進んで行くのだが、現物が見えない。人の隙間からチラリチラリと垣間見ながら進む。約 1000 点近い宝物の中から毎年およそ 60～70 点を展示しているそうだ。観る物見るもの珍しく、じっくり見ていると置いて行かれそうになる。そして、今回のメイン「タイマイ螺鈿八角箱」が登場。献物するための



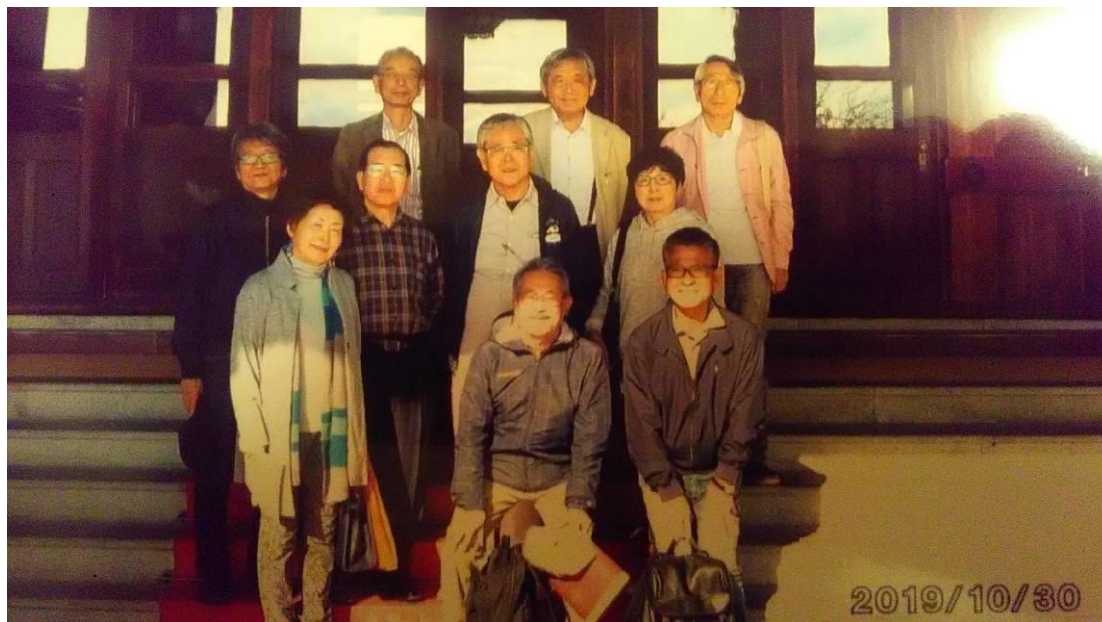
八角形の箱だが、美しい！！1300 年前に作られた物とは思えないほどの美しさである。タイマイ(ウミガメの一種)の黒色部分を加工したもので、素晴らしい。真珠のような光沢をした夜光貝を研磨して作った装飾も施してあった。花芯と花卉をあしらった真ん中には、鮮やかな琥珀が埋めてある。相対する雄雌の

オシドリや飛鳥が華と交互に配してあり、人をかき分けて近くに行き、暫く見とれてしまった。それにしても木製の箱なのに見事な保管状態だ。その保存管理の苦労たるや大変な事だろう。



12:30 に博物館を出た我ら一行は、青木さんお薦めの提案で、即、絵葉書になりそうな興福寺の五重塔が眺望できる荒池を通り、奈良で最も歴史がある奈良ホテルでお茶をする事にした。歴史

を感じる庭園を横目に見ながら入った館内は素敵だった。ロビーには歴史ある貴重品の数々並んでいて、その品々のパンフレットが置いてあるほどだ。喫茶のベランダは落ち着いた庭先が見え、奈良らしく鹿が散歩をしていた。それを眺めながら珈琲を味わい、絶品のサンドイッチを頬張る。生ハムの味は絶品であり、一流の証であろう。食後、皆でしっ



かりロビーの貴重品を見学して出口で記念撮影をし、一路近鉄奈良駅に向かった。

青木さんの車とタクシーに分乗して、川邊君が女将さんと懇意にしている店である酒宴会場「デイバイデイⅡ」へと向かう。

参加の面々は、今回も東京からわざわざ駆けつけてくれた高鍋夫妻。卒業以来初めてあった広田君（いろいろと特技があるようで皆さんからリクエストしきりだった）。次の日も休みを返上して高松塚古墳やキトラ古墳壁画がある飛鳥を案内してくれた川邊君。卓球でパートナーに足を踏まれて手術したての青木さん。今回の参加の糸口を作ってくれた安永君。正倉院展で事細かに案内してくれた田中義一君。以前博多で飲んで以来久々に会った篠原君。雑餉隈（ローカルかな？）でちょくちょく飲む本吉君。

旨い酒と料理を堪能し、ワイワイガヤガヤと 3 時間以上話し込んだ。長いようで短かった時を実に楽しく過ごして解散となった。



小生は、二度目の奈良だったが、いつ訪れても懐かしい空気に満ちあふれている気がしたのは何故だろう？

ブラタモリでも紹介があった坂道を上がっていると、窓の大きさが違ってて1階だった、面白い。花街跡に流れ込む

小川は、途中から暗渠になって人が歩けるようになっていて、どこかに有ったような？



また、あちこちに残る古い建物、町家の格子は各家がきれいに磨いて使っていて、大切にしている感じが伝わってくる。様々なかたちで新旧が入れ混じりながら 1300 年の叡智と地元

愛の賜物だ。稽古に出かける芸子さんを見かけ、その雰囲気は京都に似ていそうで違う、それが奈良の魅力なのかと思えた。またいつか、今回訪れなかった奈良を堪能する機会をもつつもりだ。

関西の皆さんありがとう。

(福島記)

